ふれあうナカマ　育む　見守る　ちょっと近くない？

学校は地域と共に歩んでいます。宮城県内の小中学校の様子、自慢できることを、児童・生徒が紹介します。

えっ？　育む　見守る　ふれあうナカマ

わが校 わがまち スクール通信

宮城県
吉田小
黒松小

次回は
三本木小（大崎市）
村田小（村田町）

吉田小　自然の素晴らしさを実感

森守る取り組み 全校で

私たち吉田小学校のみどりの少年団は、10月に宮城県内で行われた第48回全国育樹祭で「広がれ　ぼくらの願い、つなごう未来へ　～吉田の緑と自然をいつまでも～」と題し、これまでの活動を発表しました。

全校で花壇整備や田畑を耕す活動に取り組むほか、低学年は林間教室で、廃校になった分校で見つけた植物で草笛やリース作りをしたり、学校でアオダモの種を植えたりしています。

中学年になると、地域の方と一緒に天然のブナの森を観察し、ブナの根が山を守っていることや、「広葉樹」と「針葉樹」について教わります。

4年生は毎年、アオダモの苗を植えます。なたを使って添え木作りから始め、山の斜面に植樹します。6年生は、2年前に自分の植えたアオダモの周りの下草刈りを行います。

これらの体験を通して、森を守ることの大切さや自然の素晴らしさを学んでいます。これからも自分たちができることを考えて、緑や自然と触れ合っていきたいです。

全国育樹祭で学校の取り組みを発表したみどりの少年団

これがイチオシ

「金取神楽」踊り伝える

私たちの学校では、吉田地域に古くから伝えられてきた「金取神楽」が踊り継がれています。体育発表会では、縦割り班ごとに全校で踊ります。１年生には班のみんなで教えます。６年生になると、神楽師の方に話を聞いたり、直接、踊り方を教わったりします。

感謝の会では、鳥頭を付けて神楽の衣装で踊り、地域の方に披露します。要請があれば、地域のお祭りやイベントでも踊ります。神楽の音を聞くと自然に体が動くほど、大好きな神楽をこれからも踊り伝えていきたいです。

学校名	大和町立吉田小学校
所在地	大和町吉田寺野東62の１
創　立	1873年
電　話	022(345)2444
校　長	生出　真理
児童数	40人

編集委員　大塚怜世、織田友優斗、清田奈々絵、堀籠朝花、堀籠駿成、横山聖姫（６年）指導教員　伊藤さゆり

黒松小　交流を深めるきっかけに

楽しいまつのみまつり

黒松小学校では毎年、児童会の「まつのみまつり」を開催しています。

4・5・6年生が、クラスごとに話し合い、お店の準備をします。店長や副店長を決め、CMを撮影し、全校放送で宣伝します。今年はプレハブ校舎でスペースが限られましたが、全学年が楽しめるお店を考えました。

当日は、迷路、射的、映画など多種多様なお店が並び、たまにユニークなお店にも出合えます。お店に行った人は、校内マップにスタンプを押してもらえます。お店を楽しむとともに、あまり交流がない学年の人と話すきっかけにもなり、みんなの仲が深まりました。

現在、新校舎を建設中です。3年前のまつのみまつりでは、「校舎お別れ会」も行い、卒業生であるサンドウィッチマンの伊達みきおさんからメッセージが届きました。

新校舎は来年、完成予定です。まつのみまつりは皆がとても楽しみにしていて、学校全体がにぎわう行事です。自分たちの卒業後、新校舎でもずっと続いてほしいです。

まつのみまつりで遊ぶ子どもたち

これがイチオシ

ペア活動で一緒に読書

黒松小学校では、年に数回「ペア活動」があり、「なかよし読み」を行ったり、集会活動をしたりして交流しています。本年度は１・６年、２・５年、３・４年がペア学年です。

１学期の「なかよし読み」では、上学年が下学年に読み聞かせをしました。６年生は「どんな話が好きだろう」と真剣に紙芝居を選び、練習に励みました。当日、１年生はお兄さんお姉さんに読んでもらい、とてもうれしそうでした。どの学年も、一緒に読書を楽しみ、仲を深めることができました。

学校名	仙台市立黒松小学校
所在地	仙台市泉区黒松３の11の１
創　立	1969年
電　話	022(233)8080
校　長	麻生　信行
児童数	440人

編集委員　佐藤穂佳、澤田裕輝、荘司真白（６年）
指導教員　奥山千裕、木村優

子ども×ニュース　河北新報から

改めて「がんばろう！石巻」

地元中学生、看板塗り替えに協力

石巻市の石巻南浜津波復興祈念公園で29日、「がんばろう！石巻」看板の塗り替え作業が行われた。石巻中1、2年生が作業に協力し、自分たちが生まれる前に起きた東日本大震災からの復興と、伝承への思いを新たにした。

看板は配管工事業の黒沢健一さん(54)が震災発生の1カ月後、被災した店舗兼自宅跡地に地域を勇気づけようと設けた。5年ごとに設置した3代目。

参加した同校総合文化部の生徒15人は黒沢さんの講話を聞いて作業に臨んだ。計12枚のベニヤ板でできた看板の前に並んで、文字の表面をブラシでならし、丁寧にペンキを塗り直した。

2年野口碧彩さん(14)は「看板は復興の願いを支えてきたシンボルだと思う。塗り替えはとても大切な仕事。光栄で、緊張する」と慎重に色を重ねた。

来年4月11日に4代目の看板設置を予定し、同校の生徒が作成に協力する。黒沢さんは「子どもたち自身の手で看板に関わることを通して、世代から世代へと震災の記憶をつないでいきたい」と語った。

（11月30日朝刊より）

ペンキを塗り直す生徒たち

河北新報の仕事　がんばった

仙台市スチューデントシティ支局員紹介

「スチューデントシティ」は、仙台市内の小学5、6年生がお仕事をして給料をもらい、買い物や納税をする「小さな街」です。河北新報社は、新聞づくりなどの仕事を体験する支局を開設しています。

六郷小6年・金剛沢小6年（12月2日）

六郷小6年（12月3日）

川平小6年（8月27日）

旭丘小6年・東二番丁小6年（11月28日）